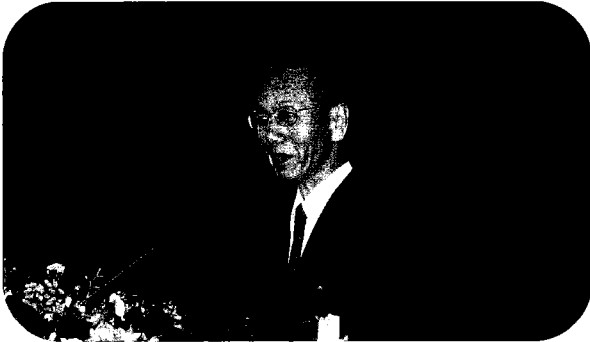
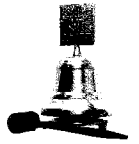


記念講演



日本ユネスコ協会連盟理事長

野 口 昇

国際ロータリーは間もなく100周年を迎えると同様に伺っております。この100周年を記念した福島県ロータリーの大会にお招きを賜りまして誠に光栄に存じます。

御高配賜りましたガバナーの山崎栄一先生、大会実行委員長の大平栄司先生はじめ、皆様方から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、国際ロータリー会長代理の南園義一先生にもお目に掛かせて頂き、大変光栄に存じました。

なお、私共日本ユネスコ協会連盟は、かねてより世界寺子屋事業というものを進めておりますが、ロータリーの皆様方からは、これまでも多大の御支援を賜っておりますことに、この席をお借り致しまして厚く御礼申し上げたいと存じます。本当にありがとうございました。

さて、私の拙いお話でございますが、お手元に講演要旨と致しましてプリントを用意致しました。3枚綴りの紙でございますが、それを御覧頂きながらお話を聴いて頂ければ幸いです。

さて、ロータリーとユネスコとは、かなり深い御縁があるということをおも最近学んだ訳でございます。先ず、国際の場面でございますが、もちろんロータリーは100周年を迎えられます。国連やユネスコは来年60周年を迎えますので、ロータリーさんの方が遥かに大先輩ということが言える訳でございますが、ユネスコを作る動きというのが1942年頃から始まりました。場所はロンドンでございました。ナチス・ドイツに追われた自由ヨーロッパ諸国が、ロンドンに亡命政府を置きました。その文部大臣を集めた会合が、1942年から頻繁に

開かれました。ここでユネスコを作る、即ち戦後の教育文化の復興をどう図るか、という議論が為されてきた訳でございますが、1943年のロータリー・ロンドン会議では、この文部大臣会議に出席された方が沢山ロータリーの会議にも参加されました。ロータリー・ロンドン会議が、ユネスコの創設に大きな影響を与えたと同様に伺っております。

また、最近におきましては、1997年、ロータリー・グラスゴー会議で、当時のロータリーのジアイ会長とマイヨール事務局長の間で協定が結ばれて、例えば平和の文化、識字教育、環境教育、こういったことに対して協力をし合おうというような申し合わせが為されております。

また、つい最近でございますが、2001年1月、アジアベリ会長と現在のユネスコのトップで活躍しておられます松浦晃一郎事務局長の間で共同の書簡が署名されまして、各地にこれが配布されております。その中でも教育、科学、文化、或いは平和を目指す事業にお互い協力していきたいというような趣旨が述べられております。

また、国内に目を転じますと、私共、世界寺子屋運動というものを、1990年、国連の識字年に合せまして開始した訳でございますが、これに関しましては、全国各地のロータリークラブの方々から、書き損じはがき等によりまして多大の御支援を賜っております。この福島県の皆様にも温い御支援頂き、重ねて御礼申し上げたいと存じます。

さて、その次の項目でございますが、ユネスコの創設と理念ということで、お時間が余りございませんので手短かに申し上げますと、約2年程の審議を経まして、1945年11月ロンドンでユネスコ創設会議



記念講演

が開かれました。ここで憲章が採択された訳でございますが、その中に非常に有名な一文がございます。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。これはアトリー首相の開会演説から取ったものでございますが、こういう言葉で憲章が始まっております。同時に、第1次、第2次の二つの大戦後の反省を踏まえまして、諸人民が、相手を知らない、相互の不信と無知、或いは偏見が、詰まるところ戦争の原因になっているという基本認識がございまして、教育、科学、文化の諸事業を通じて、知的連帯を強めて、そして恒久的な平和を目指したい。これがユネスコの理念でございます。

さて、その次の項目に書きました通り、ユネスコと日本とは実は非常に深い関わりがございます。

第一番目でございますが、今度新しい千円札が地元の野口英世博士の肖像になるようでございまして、私も縁はないのですが、同じ名前を持つ者として、大変嬉しく思っているのですが、同時に、五千円札が今度は新渡戸稲造から樋口一葉に代わる訳でございますが、この五千円札の肖像、新渡戸稲造博士は、ユネスコの前身、国際知的協力委員会でも多大の活躍をされた方でございます。国際連盟—League of Nationsが生まれて間もなくでございますが、国際連盟の決定に基づきまして、国際知的協力委員会というのが設けられました。ジュネーブに本部が在った訳ですが、当時の世界の最高頭脳を集めた委員会がございました。例えばキュリー夫人、アインシュタイン、ベルグソン、ギルバート・マレー、当時のおそらく世界の最高頭脳を集めた委員会がございました。これを取り仕切られたのが、国際連盟事務次長の新渡戸稲造博士でございました。これが一つの基になりまして、ユネスコが生まれます。ユネスコはこの国際知的協力委員会の流れを汲む組織でもございまして、新渡戸博士は我々の大先輩ということになります。

次に、戦後間もなく日本は国際社会に復帰していく訳ですが、1951年6月、ユネスコ総会は日本の加盟を認めてくれました。まだ日本はGHQの占領下でございまして、完全な主権国家の地位を確

保する前でございました。いち早く日本の加盟を認めてくれたのは、国連機関の中で第一番目がユネスコでございます。その直後にサンフランシスコ講和条約結ばれて、日本は完全な主権国家の地位を回復する訳でございますが、国連に加盟するのはその5年後でございました。1956年、日本は国連に加盟しますけれども、ユネスコはそれより5年も前に加盟を認めてくれたということがございます。

それから現在、ユネスコ事務局のトップに立られている方が日本人で松浦晃一郎氏、直前まで駐仏大使をなさっていた方でございますが、アジアで初めての事務局長で、これが日本の松浦さんでございます。昨晚お伺いしたのでございますが、RI会長代理の南園先生は、松浦事務局長と同じ御郷里で、非常にお親しいとお伺い致しました。大変嬉しく思った次第でございます。

さて、ユネスコの主要事業等につきまして、ごく駆け足で御覧頂きたいと思っております。お手元の資料の2枚目を御覧頂きたいと存じます。

現在のユネスコの加盟国は190でございます。ちなみに国連は191、ほぼ世界中の国が国連やユネスコに加盟しております。アメリカ合衆国は色々な理由があって、一時脱退をしていましたけれども、昨年10月に復帰を致しました。

ユネスコの予算を見てみたいと思っております。2年間で6億1千万ドル、日本円になおしますと670億円、1年間で335億円がユネスコの予算規模でございます。この他にも、つまり通常予算以外にも、加盟各国の任意拠出金、或いは国連の資金等を使いますので、全部合せて、1年間で500億円程度というのが世界のユネスコの予算規模でございます。この明星大学さんの予算規模はちょっと存じ上げませんが、或いは同じ位かもしれません。

それから分担金を見てみますと、一番沢山払う国が今アメリカで、全体の22%。一番少ない国が0.001%、1%の1000分の1という分担率でございます。一番貧しい国、これを払っている国が48カ国程でございます。

それから今度は事業の中身を見てみたいと思っております。ユネスコは、教育、科学、文化、コミュニ

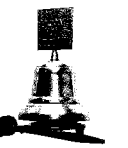
記念講演

ケーションと、非常に多様な分野を扱う国連の機関でございまして、専門機関と言われておりますが、法的にはそういう位置付けになっておりますけれども、例えば保健分野だけを扱うWHO、農業を扱うFAOと比べましても非常に幅広い活動を行っている、これが大きな特徴かと思っております。

教育の方を先ず見てみますと、何と言いましても、全ての人が教育を受けられるようにしよう、Education for All—万人に教育を、というのが一番大きな課題でございます。ちなみに今この地球上に暮らす人口は、全部で63~64億人と言われております。15歳以上の大人になっても読み書きが出来ない、いわゆる、非識字者でございまして、実にまだ8億6千万人いると言われております。世界の中で5人に1人の大人は読み書きが出来ないという現状がございまして。それからまた、小学校にも満足に通えない子供は、1億人強でございます。おそらく世界の子供の中で5人に1人は満足に小学校にも行けない。アフリカだけを取りますと、2人に1人の子供が満足に小学校も終えられない、こういう現状がまだ残っている訳でございます。これに取り組むのが第一の課題でございます。

それから科学について言いますと、地球環境問題に関する国際共同調査を進めて各国の科学者、政府を動員して色々な調査研究を致しております。日本の提案で始まりましたのが海洋学でございます。それから自然と人間との調和を図る活動、人間と生物圏事業、それから今、水の問題が非常に大きな関心事となっておりますが、この水文学、いわゆる淡水の問題、これについてもユネスコが古くから国際研究を進めてきております。人文社会科学も扱っております。平和研究や人権の教育等々進めて参りましたが、最近では生命倫理、あるいは都市化の問題、こんな事業を進めております。

文化につきましては、皆様御存知の通り世界遺産、今、ユネスコの代表的な事業となっておりますが、世界遺産事業がございまして。今、全世界で788の世界遺産を数えるに至りました。日本は12件でございます。世界遺産というのは文化遺産と自然遺産、或いは合体した複合遺産、言わば有形の遺産でございます。一旦世界遺産に登録されま



すと、その国の財産であることには変わりはありませんが、例えば法隆寺、これは日本が誇る世界遺産の一つですけれども、法隆寺というのは日本の財産である。と同時に、世界遺産になった以上、これは人類全体の宝である。ですから、人類全体の為にこれを守っていかねばならない、という趣旨でございます。

それからこういった有形の文化財だけではなくて、伝統芸能等々は無形の文化遺産と言われておりますが、これも非常に大事でございまして、松浦事務局長になられた後から、特に無形の文化財にも力を入れてこられました。世界の無形文化財の傑作宣言というのがございまして、第1回の傑作宣言には日本の能楽が入りました。第2回の傑作宣言には人形浄瑠璃文楽が入りました。そして、昨年のユネスコ総会では、無形文化遺産の保護に関する条約が採択されました。これで言わば車の両輪が整い、有形の世界遺産と無形の文化遺産を守る両方の動きがこれで制度的に整備されたということが言えるかと思っております。

それから今、特に注目を集めておりますのが、文化の多様性を守ることでございます。地球上に沢山の生物がおります。生物の多様性を守ることが自然環境を守り地球を守る一つのシンボリックなことでございます。同時に人間の豊かさ、多様性を守る、文化の多様性を守ることが今、非常に重視されております。

後程、映像で御覧頂きたいと思っておりますが、アメリカのサミュエル・ハンチントンは文明の衝突という論を唱え、大変な論争を招いてきた訳ですが、文明、文化は衝突することもあると思っておりますが、それを衝突するものと捉えてはまずい、やはり文明、文化は交流し、その間の対話を進めなければいけない、これが、国連やユネスコが今、一生懸命推進しているところでございます。後程この辺は映像で御覧頂きたいと存じます。

それでは、皆様から御支援を賜っております世界寺子屋運動の現場の映像をここでビデオで御覧頂きたいと思っております。私も最近アフガニスタンに行つて参りました。それから、早稲田大学の学生を連れて、インドの寺子屋の現場に行つて参りま



記念講演

した。パキスタンでは、アフガンの難民キャンプで寺子屋事業を致しております。そんな映像をこれから皆さんに御覧頂きたいと思ひます。

これはインドの貧しい村ゴカックといひますが、そこで行っている寺子屋でございます。夜の勉強でございます。読み書きの勉強の他に、工作の授業も取り入れておりました、今、チョークを作ったり、ロウソクを作ったり、そういう工作の時間の場面でございます。子供たちは残念ながら昼間、働かなければなりません。貧しいですから、日中、野良仕事、畑のお手伝いなどを致します。朝9時から午後5時まで一生懸命働いて、稼げるお金が60円～70円です。そして夜、疲れ果てた子供たちが私達の寺子屋にやって来てくれます。寺子屋の学校が出来た前は、ヒンズー教のお寺で勉強していました。電灯がないものですから、ロウソクで、本当に真っ暗闇の中で一生懸命勉強しておりました、感動的な場面でございます。これもヒンズー教のお寺を借りた寺子屋の現場でございます。今、灯りが見えるのは、あれはロウソクでございます。こういった中で、子供達は本当に一生懸命勉強しております。6歳から10歳位の子供達です。

今度は、同じゴカックという貧しい村ですが、農村の婦人達の集まりです。農村の婦人達が毎月1、2回集まりまして、色々な問題点を話し合ったり、昔、頼母子講というのがありましたが、皆さんお金を持ち寄ります。そのお金で、例えば結婚式の費用を助けるとか、病気になった人を助けるとか、助け合いの仲間達でございます。

これは今、新しい寺子屋が完成致しまして、その竣工式の様子です。真ん中の人は国会議員でございます、ニューデリーから駆け付けてきてくれました。最初にヒンズー教の儀式でお線香を焚きます。これがその完成した寺子屋です。約200万円位で1校を作っております。現地では土地を出したり、労働力を出したり等、現地の人も力を合わせて来ております。

これはアフガニスタンでございます。アフガニスタンのカブールから70キロほど北東に行った場所でございます。センジットガラという村でござ

います。ここはベルマークさんの支援で寺子屋を作りました。建築途上の映像でございます。今はもう既に完成致しました。

これは、その村で女の子に教育を与えている、この部落で初めて女子教育が実施されています。皆このようにスカーフを巻いて、地面に座っています。テントの中の学校でございます。御覧頂きますように、本当に、皆、目が輝いております。昨日、アフガニスタンでは大統領選挙が終わり、今、ニュースに取り上げられておりますが、早く平和が、本当の安定が来れば良いと思っております。私達はこういう所で皆様の御支援を頂きながら寺子屋事業を進めております。この前には小川が流れておりました、畑の一角を使って、テントでこういった学校を営んでいる訳でございます。日本から文房具を持っていってお配り致しました。

これはパキスタンです。パキスタンにアフガンの難民が沢山おりました。大部分は本国に帰ったのですが、まだパキスタンに残っている難民が沢山います。ここで学校を営んでおります。これは民家を使いまして、この民家の中で男子校と女子校の寺子屋を運営致しております。最初はこういった制服も提供出来なかったのですが、教科書、文房具の他にちょっとした制服も今は提供するよう致しております。ちなみに、ここで食べるナンという大きなパンですが、一枚4円で買えます。書き損じはがき一枚で、こんな大きなナンが11個買うことが出来る訳です。

これは女子のアフガニスタンの子供達です。いずれは本国に帰って欲しいと思ひますが、まだ故郷が安定していないものですから、この貧民窟で暮らしております。それからこの後、少し衝撃的な場面を御覧頂きたいと思ひます。ここに立っている人は先生達です。

ここはパキスタンのイスラマバードの郊外貧民窟です。外を御覧頂きます。大体みんなこうやって泥で作った家です。これが貧民窟。今さっと見て頂きましたのが墓地です。難民の人達もここで沢山亡くなりました。イスラムは土葬です。そこに小さな石を建て、お墓にしている訳です。ここが墓地でございます。子供達はどんなに貧しくて



記念講演

も目が輝いて、笑顔が本当に素敵です。ああいう状況です。この辺の溝川は本当に凄いいががしまして大変なんですけれども、ここでも寺子屋を幾つか運営しております。子供達は皆、裸足です。年長の女の子はいつも赤ん坊を抱えている、そういう風景がよく見られます。悲惨な状況が少し御覧頂けたのではないかとと思ひますが、こういう所でも少しでも教育をしてあげればということで、実施致している訳でございますが、今度は文化の方に少し目を転じてみたいと思ひます。

ビデオ大丈夫でしょうか。これはアフガニスタンのカブールでございます。今、あのパーミヤンの大仏が破壊される衝撃的シーンを、私もビデオのコピーを取りましたので、これがそうです。

これが破壊される前の状況です。これは爆薬を仕掛けておりました。

残念ながら人類の宝であった2つの大仏は瞬時に破壊されてしまいました。一つの方が55メートルの高さでした。玄奘三蔵も大変称賛していたものです。

ここで止めてください。そこで私達はこのパーミヤンで文化財を支援する研究研修センターを立ち上げること致しました。私もその開所式に行きまして。その映像を少し御覧頂きたいと思ひます。

これはカブールから小型飛行機でパーミヤンに向かうところです。9人乗りの小さな小さな飛行機で、これはパーミヤンに向かう途中です。ヒンズークシュ山脈の枝別れた山脈が続いております。もうすぐあそこにパーミヤンの大仏の跡が見えて参ります。パーミヤンには空港はありますが、舗装されていません。砂利道の中を飛行機が降りていきます。

これは向こう側が大仏が刻まれていた壁面です。その谷を挟んで向かい側に土地を頂きまして、ここで開所式を行いました。私もちょっとしたスピーチをしたのですが、ちょうどユネスコの国際専門家チームが来ておりました。一緒に参加してくれました。かつて天皇陛下もこの近くのホテルにお泊りになったということでございます。

今、遠方に御覧頂けますのが壊れた大仏の跡、巨

大な仏顔でございます。御覧頂けますように、55メートルの西大仏、38メートルの東大仏、同時に壊れましたけれども、まだ小さな仏がいっぱいあります。色々な物が今また次々に発見されております。これはその近くに行っているところでございます。

これが小さい方、38メートルの東大仏の足元、ふもとでございます。鉄のパイプを入れて壁が壊れないように補修作業をしているのを御覧頂けると思ひます。これはユネスコが日本の資金等を使って修復作業をしているところです。

それから今度、西大仏の方を少し。こちらが西大仏です。55メートルの巨大な大仏があった所です。殆ど完璧な形で壊されましたけれども、大仏その物もそうですが、周りに貴重な壁画がありました。その壁画も殆ど無くなってしまったと、非常に残念なことでございます。

ビデオ一旦止めてください。今、御覧頂きました、このアフガニスタン、パーミヤンで、皆様方の全国各地の方々の御支援を頂きながら、文化財を守る保存研究センターを今、立ち上げているところで工事が始まりまして、来年の6月には竣工を見ることが出来るのではないかとと思っております。

さて、今度は、私が最初に申し上げましたが、文明が衝突するという、ちょうど9.11の衝撃的同時多発テロ以来、アフガニスタンへの軍事攻撃、イラク戦争と続きまして、あたかもキリスト教文明対イスラム文明というような捉え方がなされて、ハンチントンの説が現実味を帯びたような感じがするのですが、それとは逆に、やはり文明間には色々な交流があったのだということを少し映像で御覧頂きたいと思ひます。

今度はビデオではなくスチール写真ですが、お願ひします。まずこれが、先程御覧頂きましたパーミヤンの工事が進んでいる状況です。右下の方が塀をこしらえたところでございます。現地に馴染むように、現地の材料を使いながら塀をこしらえ、建物の工事を始めたところです。

これを御覧頂けますでしょうか。真ん中が仏像です。その左に一人人間がおります。拡大で御覧頂きます。これが拡大した図です。これは誰でしょう

記念講演

か。外国人の方もいらっしゃるかもしれませんが、これはギリシャ神話の英雄ヘラクレス、英語でハーキュリーズ、怪力の持ち主をハーキュリアンと英語で言うようですが、ギリシャ神話の英雄中の英雄ヘラクレス、これが仏像をお守りしている訳です。肩にライオンの頭があります。それから右手に持っているのが棍棒の代わりに金剛杵、ちょっと形を変えますが、紛れも無くギリシャの英雄ヘラクレスです。これは本当に衝撃的な映像だと思っております。東洋の仏像と仏教と、それからギリシャの英雄が融合している、習合しているという、これはおそらく紀元後早くに作られたと言われており、場所はアフガニスタンです。この像が発見されたのはアフガニスタンですが、残念ながら連侵攻の時にこれは壊れてしまいました。

次お願いします。同じような図柄は沢山残っております。これはパキスタンのペシャワールの博物館で撮ってきたものです。真ん中がやはりお釈迦様だと思います。左の方の髭を生やしているのが紛れも無くヘラクレスです。これは壊れる前の大仏でした。顔は削られておりましたが、仏教が滅んだ後、イスラム教がここへ入りましてイスラム教徒が顔を削ったんだと思いますが、それにしても千何百年もこのままの姿でつい最近までパキスタンの土地にあったのでございます。

この仏像を御覧頂きたいと思えます。これもパキスタンのペシャワール、かつてガンダーラと呼ばれた所の、ガンダーラ仏でございます。右がギリシャの彫刻です。非常に似た衣になっております。それで多くの学者の先生が、色々な説があるようでございますが、何故仏像がこのガンダーラ



で生まれたか。お釈迦様が生まれてから、教を説いて数百年は仏像も仏画もありませんでした。紀元1世紀頃に突如としてインドの2カ所で仏像が生まれます。一つがガンダーラです。先程御覧頂きましたように、ここはアレクサンダー大王が征服して、ギリシャ文明を残していきました。仏教徒になった人達が、ギリシャ彫刻を見て、私達の拝むお釈迦様もこうだったのではないかと、そして仏像を作り出したのではないかという有力な説があります。それ以外の説もあるようですが、私はその説に非常に感動する訳ですが、そのようなことでアレクサンダー大王が残したヘレニズム文化がここで花開いていく訳です。

これはついでございますが、やはりガンダーラ、今のペシャワール辺りで保存されている仏像です。最初の仏像はやはり彫りの深い、インド・アーリア系の顔です。右の方は断食の修行をされて最後の頃、痩せ細った仏像でございます。これがずっとアフガニスタンだけではございません。シルクロードを通過して、中央アジア、中国、朝鮮半島、そして日本とこういう風に伝わってくる訳でございます。平山郁夫先生はよく仰るのですが、お釈迦様が仏教を説いてから、仏教が日本に来るまで千年の年月がかかった。仏教と同様に、仏像仏画、仏教美術が日本に伝わってくる訳です。それと同時に、ギリシャ文明や中国、中央アジア等の色々な文化文明が日本に渡ってくる。文明の交流というものを考えさせる映像が沢山ございます。

これがシルクロードの天山山脈の麓の、キジル千仏堂の壁画です。これはモンゴルです。モンゴル大帝国、カラコルムが本営地といったところですが、これも廃墟になってしまっていますが、例えばこれを見て下さい、これは石碑が乗っていたのですが、亀です。亀の上に石碑をのせるというのは中国の様式で、中国の影響も逆にモンゴルにも残っております。これも私達は保存に力を入れてきました。

これはついこの間、ジンギスカンの墓を皆がどこだ、どこだ、と探していたのですが、ジンギスカンの霊廟が見つかり、この近くに墓があったに違いない、ということで、漸くジンギスカンの墓が見つかるような動きになってきております。

記念講演

今度は、ここは御覧になられた方は多いと思えます。中国洛陽、龍門石窟の仏像です。もう顔は東アジア系の顔になりました。私達のような顔になっておりますが、盧遮那仏、則天武後の顔を真似たと言われておりますが、これも奈良の大仏に影響を与えたと言う風に言われているように思えます。

これは中国の西安に大明宮というのがありますが、玄宗皇帝が日本の遣唐使を謁見した場所で、そこが廃墟になっております。ユネスコの事業としてこの大明宮の復元をやってまいりました。工事現場です。

ちょっと北朝鮮の映像を御覧頂きたいと思えますが、北朝鮮は大変困った国ではあります。核開発疑惑、核開発は何としても止めてもらわなければいけませんし、日本にとっては拉致疑惑、拉致問題の解明を進めて、また生存者は是非早く日本に戻って欲しいと思えます。今、世界から孤立している北朝鮮、何とかして普通の国に戻って欲しい、軟着陸をして欲しいというのがおそらく世界中の願いだと思えますが、文化の方に目を転じますと、ここに非常に素晴らしい文化遺産がございます。高句麗古墳、その中の壁画でございます。

つい最近、この高句麗古墳群がユネスコの世界遺産に登録されました。私はユネスコの北京事務所長の時に、北朝鮮も担当しておりまして、帰国後もユネスコのアドバイザーとして平山郁夫先生と一緒に、この北朝鮮の貴重な文化財の保存に携わって参りました。御覧頂きたいと思えます。これはその中の壁画の一部です。前に福田官房長官のところに、平山先生のお伴で訪れ、これをお見せしましたら、聖徳太子みただね、と仰いましたが、そんな感じもいたします。ちょっと御覧下さい。この上にあります像、今新聞で騒がれております、奈良の明日香村の高松塚古墳の肖像画、貴婦人の像でございます。こちらを見て下さい。こちらが北朝鮮の高句麗古墳に残されている貴婦人の像でございます。非常に似た図柄でございます。ちなみにこういったところで使われている青い色、これはひよとしてラピスラズリという石ではないと言われております。ラピスラズリはアフガ



ニスタンでしか採れません。ですから、当時の飛鳥時代、古墳時代に、顔料はアフガニスタン原産のラピスラズリを使っていたのではないかと、科学的な研究がそのように指摘しております。

次はこれです。これは高松塚古墳の傍のキトラ古墳。今、カビによる破損が激しいと言うことで剥がしております。これは朱雀でございます。日本の朱雀の像でございます。そしてこれが北朝鮮の朱雀でございます。こういうことで、今、奈良の高松塚古墳、キトラ古墳のこういう図柄、こういうものの中にも日本は大変影響を受けてきている。朝鮮半島、中国、遥かにシルクロードを通過して中央アジア、それからアフガニスタン、更にはギリシャ、ローマ、その辺までの影響が日本にも古代から伝わってきている、影響があった、ということが読み取れるのではないかとと思えます。

最後に、ではヘラクレスは何処に行ったのだろう、アフガニスタン、パキスタン、ガンダーラでお釈迦様を守っていたヘラクレス、実はこれが日本にも来ているという説がございます。これは四天王の一つ、乾闥婆の頭を見て下さい。ライオンの毛皮が乗っかっています。ひよとしたらヘラクレスがいつも着けていたライオンの毛皮は、日本に来てこういうところに影響を残しているのではないかと、こういう説がございます。

次をお願い致します。同様に四天王の一つですが、執金剛神が手に持っているもの、今は槍ですけども、ヘラクレスは棍棒でした。それが金剛杵というものになり、そしてそれがまた槍のような形になったのではないかとされています。もう一つ、映像はお持ち致しませんでしたけれども、やはり四天王の中でこの獅嚙という腕にライオンの顔が乗っているものがあります。これもやはりヘラクレスの末裔を示す証ではないかという説もでございます。

そういうことを考えますと、仏教が千年かけて日本にやって来て、その中でギリシャ、中央アジア、中国、朝鮮半島、色々な物を運びながら日本に遥々やって来ていたとそんなことを私達は考えることが出来るのではないかとと思えます。

そういうことで、今、ユネスコが一番力を入れ



記念講演

ていることが、文明間の対話、異なる文化文明の共存ではないかと思えます。9.11以降の世界は一層不安定になり、亀裂が深まったような感じさえしますけれども、だからこそ私達はロータリーの皆様の精神やユネスコの精神をもう一度原点に戻って考え直しながら、異なる者、異なる文化を認め合う、そういう精神が非常に求められているのではないかと思えます。

尚、昨晚ロータリーの会議のレセプションに参加させて頂きまして、皆様方と一緒に手をつないでロータリーの歌を聴かせて頂きました。その歌の歌詞を聴いておりましたら、私共ユネスコの歌と非常によく似ているんですね。感動致しました。やはり皆で手をつないで、お互いを尊重し合いながら、そして親善と世界平和に努力していこう、ということが歌に込められていたように思いますが、ユネスコの歌もまったく同じでございまして、本当に感動致しました。

そんなことで、一番最後に書きましたけれども、ロータリーの皆様方が掲げられる理念と、ユネスコの理念は非常に近いものがある、共通した点が

多いと改めて感じた次第でございまして。私共はこれまで世界寺子屋運動の書き損じはがき等で多大な御支援を皆様方から賜って参りまして、本当にありがたく思っております。貴重な御貢献、御支援は、先程御覧になって頂きました様に、寺子屋の活動に使わせて頂いたり、或いは文化財保存センターの建設に使わせて頂きまして、世界の為に少しでもお役に立てればと思っている次第でございまして。

今日はこういった非常に記念すべき大会に私如き者をお招き頂き、お話をさせて頂く機会を与えて頂いて、大変ありがたく思っております。今後とも、また皆様方から色々と御指導や御支援を賜ることと思いますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の大会が成功裏に終わられますことをお祈りし、またロータリーの皆様方の御健勝と益々の御発展を祈念申し上げます。私の拙いお話を終わらせて頂きます。御静聴どうもありがとうございました。